開催趣旨

自給飼料利用研究・技術開発は農研機構及び公立研究機関等を中心に行われ、新品種や機械・作業技術、貯蔵・給与までに至る多くの技術開発がなされてきた。これら研究成果を一連技術として実需者に移転し、生産に反映させることが重要である。成果の社会実装については、研究者の努力に依存する部分が大きく、迅速・広範に普及する例は多くない。また、新技術を生産現場に持ち込むことによってはじめて認識される課題にも適切に対応することが普及技術として重要で、そこでは都道府県・農協等の普及部門や民間との連携も必要である。本年度の自給飼料利用研究会では、農研機構等公的機関で開発された新技術の社会実装とそこに横たわる課題を検証し、研究成果を効率的に自給飼料増産に活用するための知識・知恵の共有を図る。

主　催

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構　畜産研究部門

共　催

国産飼料生産利用拡大ネットワーク

日　時

平成２９年１２月４日（月）１１：００～１６：５５
平成２９年１２月５日（火）　９：００～１１：５０

場　所

発明会館（東京都港区虎ノ門 2-9-14）

参集範囲

農林水産省、独立行政法人、国立研究開発法人、都道府県、大学、団体、民間等の関係者

次　第

第１日目　１２月４日（月）

開　会 11:00

挨　拶 11:00-11:10

農研機構 畜産研究部門長　塩谷　繁

基調講演 （座長：農研機構 畜産研究部門 畜産飼料作研究監　大同久明）

社会貢献のための研究リテラシーの具体的方策　－稲 WCS 研究成果の社会実装を例にして－

11:10-12:00

日本草地畜産種子協会　吉田宣夫

昼食休憩 12:00-13:00

行政報告 （座長：農研機構 畜産研究部門 畜産飼料作研究監　大同久明）

飼料をめぐる情勢と国産飼料増産対策 13:00-13:40

農林水産省生産局畜産部飼料課　太鼓矢修一

研究・技術・事例紹介 （座長：農研機構 畜産研究部門 飼養管理技術研究領域長　野中和久）

アルファルファ新品種「ウシモスキー」の特性と普及に向けた取り組み 13:40-14:10

農研機構　北海道農業研究センター　奥村健治

ﾄｳﾓﾛｺｼ官民共同育成品種‘PI2008(ｽﾉｰﾃﾞﾝﾄおとは)’の育成と普及について 14:10-14:40

雪印種苗(株)　立花　正

公的育成飼料作物品種の普及について 14:40-15:10

日本草地畜産種子協会　小林正勝

休憩 15:10-15:25

試験研究機関の開発技術の現地実証　－普及・実需者の立場から－ 15:25-15:55

熊本県酪農業協同組合連合会　増田　靖

飼料用サトウキビに関する技術開発と普及 15:55-16:25

農研機構　九州沖縄農業研究センター　服部育男

飼料生産用機械の開発から普及まで　－細断型ロールベーラ、汎用型飼料収穫機の場合－

16:25-16:55

農研機構　農業技術革新工学研究センター　志藤博克

第２日目　１２月５日（火）

研究・技術・事例紹介　（座長：農研機構 畜産研究部門 飼料調製ユニット長　鈴木知之）

乾田直播栽培（イネ）とトウモロコシ栽培・子実生産　9:00- 9:30

農研機構　東北農業研究センター 篠遠善哉

イアコーンサイレージ生産・利用技術マニュアル第２版について　9:30-10:00

農研機構　北海道農業研究センター　青木康浩

日本飼養標準（乳牛）改訂について　10:00-10:30

農研機構　畜産研究部門　永西　修

休憩　10:30-10:45

総合討議　（座長：農研機構 畜産研究部門 飼料連携調整役　上山泰史）

10:45-11:50

閉会　11:50